

太古時代の天文臺——日時計

太古時代の天文臺——日時計が岡山縣都窪郡庄村字日畑の 楯築神社跡から發見された。發見者は岡山醫科大學生理學教室教授生沼曹六博士である。

生沼博士は考古學者としても有名で、發見された日時計は從來古墳群の一部と見られ、また土地の傳説によると四道將軍吉備津彥命が、賊の平定にあたりこの丘陵を陣地として、矢よけの大石柱を建て楯代りとしたもので、このため後年楯築神社の名が生れたのだといはれてゐるが、生沼博士が實地踏査の結果によると、直徑五間近くの圓形丘陵の中央部に高さ一間ばかりの大石柱が建てられ、この石柱を廻つて適當な間隔を置き六本の石柱、さらに中央大石柱から北斗七星のような恰好で、小石柱五本が建てられ、いづれも古墳の如くこけむして居る。しかし石柱の面は矢よけに極めて不適當に出來て居るので、よく調査して見ると中央大石柱と周圍の二石柱をつなぐ一線は正に東西の方向を寸分違はず示し、また六個中の一個の石柱は南方の方角を示してをり、この六個の石柱および五個の石柱の配列と石面の日影により太古時代の人々が方角は勿論一ヶ月間の日數と時間を計算してゐたものであることが判明した。生沼教授は有史以前のものならんと斷じ、ドイツの考古學の文献にかゝる珍しい日時計がかゝげられて居るが、その文献と對照して研究して見ても、太古の日時計であることは間違ひないといつて居る。

日畑は岡山の西、庭瀬驛の北方約四千米にある古城跡である。

〔天界〕舊號を求む 本誌第1號から第95號までを欲しい人が多くありますから、御不用の方は本會事務所まで御知らせ願ひます。代價は個別に御相談申ませう。(天文協會)